

地域福祉学習事業

町内の各小中学校（5校）を指定し、地域ぐるみで生徒・児童を守り育てようとする取り組みを支援することにより、共に支えあう地域社会づくりを推進することを目的に「地域福祉学習事業」を支援しています。

（この事業は、共同募金の配分を受けて実施しました。）

平成29年度

地域福祉学習事業
実績報告

神戸小学校

目的

幅広い体験や活動を通じて、他を思いやる心を持ち、進んで行動する児童を育成する。

内容

〈5年生 総合的な学習〉

・校区祭では、介護施設で働く方々に来ていただき、講話と共に実際に器具の体験をさせていただきました。具体的には、様々な形状の車椅子、介護用ベッド、歩行器、杖などである。実際に体験することで、便利さや器具の工夫に気づくことができた。

・ゴーグルや耳当て、肘当て、膝当てなどをして、高齢者疑似体験を行った。体が不自由になると、段差なども危険だということを感じることができた。

・調べて分かったことを資料や福祉新聞にまとめた。

成果

模擬体験用備品を活用して、障がいのある方や高齢者の方の疑似体験をしたり、老人介護施設勤務の方々には介護器具を用意していただき、実際にそれらを使ってみることで、器具の便利さや工夫された点を体感することができた。これらの体験や講話などを通し、福祉の心を養うことができ、自分たちができることを考え、課題意識をもって活動することができた。



下宮小学校

目的

様々な人とのふれあいや体験的な活動を通して、福祉の心を養い、進んで福祉活動に参加しようとする態度を育てる。

内容

〈総合的な学習の時間〉

- ・学習を通して、福祉についての正しい知識を持つ。
- ・立場が違う人のことを理解して、相手の立場に立つことの大切さと思いやりの心を育てる中で、実践意欲を高める。
- ①認知症について、講話を聴くことにより、正しい知識をもつ。
- ②高齢者、障がいのある方々の疑似体験（体におもりを身に付けた歩行、イヤーフエンダーを付けての会話、アイマスクを身に付けた白杖を使った歩行など）
- ③幼児園訪問
- ④デイサービスセンター訪問
- ⑤福祉について学習したことを一人一人まとめ、家族や友達、下学年に発信する。

成果



- ・高齢者、障がいのある方々の疑似体験（介護者の体験など）を通して、相手の立場に立つ難しさや大切さを実感しながら学ぶことができた。
- ・また、実生活の中で自分ができることを考え、実践していこうとする態度を育てることができた。
- ・幼児園訪問で、園児との交流を通して、幼児が安心して活動できるように思いやりある活動ができた。
- ・デイサービスセンター訪問の中の施設見学や講話、高齢者の方とのふれあいを通して、正しい知識を身に付け、福祉について興味をもつことができた。
- ・福祉について学習したことをふり返り、興味をもったことについて実際に調べて調べたり、インターネットや図書資料を活用し、調べ学習を行った。その中で、福祉についての幅広い知識をもつことができた。



南平野小学校

目的

福祉活動を積極的に推進し、福祉教育の充実を図る。

内容

○美化活動

・運動場や校内の清掃活動を全校で行う。

○心の教育推進活動

・年間を通して、植物や生き物の世話を行い、生命の大切さについて考える指導を行う。
・助産師、保健師の協力を得て3年「いのちの授業」を実施する。

・保護司と薬剤師から薬物の恐ろしさや誘惑に負けない心が大切である話を聞く。

・学級園に大根やサツマイモ等を栽培する。

・収穫したヘチマを使って、たわしづくりをする。

・収穫した大根を使って、大根パーティーをする。

・田植え、稲刈り、収穫した米でご飯を炊く。

・JAの協力で野菜の栽培についての講話を聞く。

・校区祭を「お弁当の日」として、家族で弁当をつくり、学校で一緒に食べる。

・卒業の書を書く。

○伝統文化・達人の技の継承

・地域の達人から茶華道、俳句、絵手紙等を学ぶ。

・校区祭で凧づくりや保存会の方の指導で神戸音頭を学ぶ。

○福祉学習「総合的な学習」ともに生きる

・5年・障がいをもった方やお年寄りとの関わり方についての体験や調べ学習を行い、11月に発表会を開く。

・子育て支援センター訪問

・手話サークルの方による手話講座の開催



▲ヘチマの苗植え



▲手話講座



▲大根の収穫

- ・デイサービスセンター訪問
- ・認知症講座の開催
- 地域への訪問・交流を年間を通して実施
 - ・幼児園との交流 伝承あそび
- 学校行事への招待
 - ・運動会、感謝する会、校区祭（学習発表会）
- 環境委員会の活動
 - ・義援金贈呈（熊本地震）
 - ・一円玉募金
- キャリア教育
 - ・地元出身のキャンピンアテンダントの講話

成果

- ・障がいをもった方やお年寄りとの関わり方についての学習を通して福祉活動に関する理解を深めることができた。
- ・地域人材を活用した伝統文化を学ぶ活動や各交流活動、環境の学習・整備を通して地域の方とのふれあいを深めると共に地域を知り、地域を大切にする気持ちを育てることができた。

北小学校

目的

- ・高齢者や障がい者とのふれあいを中心とした福祉学習を意図的・計画的に工夫し実践することで、他への思いやる心を育てる。
- ・学校、保護者、地域との連携がより強化され、地域全体で支え合う温かい絆づくりを推進する。

内容

- 高齢者や障がい者の方とのふれあいの活動や手話学習の実施（総合的な学習の時間）等
 - ・特別養護老人ホーム「りんどう」の訪問（高齢者との交流）
 - ・高齢者や障がい者の生活疑似体験活動
 - ・人権学習（ひびきあいの学習）
 - ・総合的な学習の時間で学んだことを発表（学習発表会）
- 祖父母参観・ふれあい教室など学校行事等でのふれあい活動
 - ・祖父母や公民館関係の講師との交流
 - ・登下校時における見守り隊の方との交流（感謝の会）
- 異年齢集団による交流
 - ・1年生と北幼児園の交流（伝承遊び・学校探検他）
 - ・ゆきゆき班によるふれあい活動（大縄跳び等）
- 授業（クラブ・総合的な学習の時間等）での地域や保護者の方とのふれあい活動
 - ・クラブやおはなしひろば（講師）

成果

- ・高齢者や障がい者とのふれあいや手話の学習等の活動を通して、高齢者や障がいをもった方への理解を深め、自分ができることは何かを考えることができた。
- ・保護者や地域との連携により、教育活動のより一層の充実が図られ、北地区全体で支え合う温かい絆づくりが推進できている。
- ・幼児園や異年齢集団との交流を通して、異なる立場を理解し、他者を思いやる心と高学年としての自覚が育ってきている。
- ・なかよし学級では、音楽療法や和太鼓の活動を通して、リズム感を体全体で覚え表現したり、意欲的に集中して活動に取り組める姿が見られている。



- ・野菜や米作り、みかん作り（講師）（2・3・5年生）
- ・町探検での交流（1〜3年生）
- ・音楽療法や和太鼓の活動（講師）（なかよし）



神戸中学校

目的

・福祉委員会を中心に、町社会福祉施設との交流を行い、他者を思いやる心を育てる。

・地域の清掃、行事への参加、ボランティア活動への参加等を通して、感謝の心、地域の一員としての自覚をもてるようにする。

・植物を育て、それを役立てることを通して、生命を大切にすることを育てる。

内容

1. もちのき園との交流活動、居住地交流

・クラフトバンドを使ったかご作り
・鉢花の購入

2. 農園での野菜の栽培
・維持・管理費

成果

1. 神戸町社会福祉施設「もちのき園」で福祉委員会の生徒を中心に交流を行い、講師を招いてクラフトバンドを使ったかご作りを行った。

2. 卒業式に飾る鉢花を、各学級で

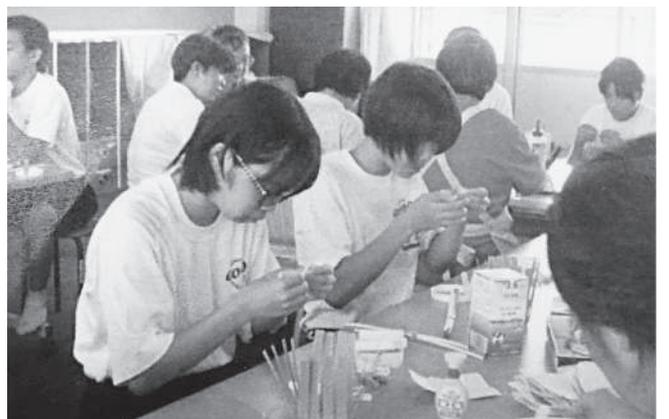
3. 特別支援学級の生徒が中心となり、校内の畑にさまざまな作物を植えて育てた。収穫した作物を職員に販売（実習）したり、居住地交流で調理実習を行ったりするなど、生活単元の題材にすることができた。



▲居住地交流の生徒と行った大根の収穫と調理実習



▲居住地交流の生徒と行ったにんじんの収穫



▲もちのき園との交流